

## 2025 年度 授業計画(シラバス)

学 科	臨床検査技師科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	演習
科 目 名	総合技術演習		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	2年生		学期及び曜時間	後期 木曜日3,4限	教室名	6F実習室,7F実習室
担 当 教 員	齋藤 寛	実務経験と その関連資格				
《授業科目における学習内容》						
実技演習を通じ、臨地実習先で必要な知識・手技を習得する。						
《成績評価の方法と基準》						
筆記、口頭、実技、課題などの総合評価とする。						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
配布資料・赤本						
《授業外における学習方法》						
これまで学んできたこと(特に実技に関する知識・手技)を総復習する。						
《履修に当たっての留意点》						
自ら考え行動する。積極的に学ぶ姿勢を持つ。						
授業の 方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義演習形式 授業を通じての到達目標	実技演習を通じて、検査説明ができる。		赤本及び配布資料	2年次の実習を復習	
	各コマにおける授業予定	検体採取処理技術演習①				
第2回	講義演習形式 授業を通じての到達目標	実技演習を通じて、検体の確認ができる。		赤本及び配布資料	2年次の実習を復習	
	各コマにおける授業予定	検体採取処理技術演習②				
第3回	講義演習形式 授業を通じての到達目標	実技演習を通じて、手指衛生・感染対策ができる。		赤本及び配布資料	2年次の実習を復習	
	各コマにおける授業予定	微生物検査学演習①				
第4回	講義演習形式 授業を通じての到達目標	実技演習を通じて、顕微鏡の使い方を習得する。		赤本及び配布資料	2年次の実習を復習	
	各コマにおける授業予定	微生物検査学演習②				
第5回	講義演習形式 授業を通じての到達目標	実技演習を通じて、グラム染色の手技を習得する。		赤本及び配布資料	2年次の実習を復習	
	各コマにおける授業予定	微生物検査学演習③				

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第6回	講義演習形式 授業を通じての到達目標	実技演習を通じて、微量ピペット操作ができる。		赤本及び配布資料	2年次の実習を復習
	各コマにおける授業予定	臨床化学検査学演習①			
第7回	講義演習形式 授業を通じての到達目標	実技演習を通じて、液量調整操作ができる。		赤本及び配布資料	2年次の実習を復習
	各コマにおける授業予定	臨床化学検査学演習②			
第8回	講義演習形式 授業を通じての到達目標	実技演習を通じて、希釈系列が作製できる。		赤本及び配布資料	2年次の実習を復習
	各コマにおける授業予定	臨床化学検査学演習③			
第9回	講義演習形式 授業を通じての到達目標	実技演習を通じて、標準12誘導心電図検査の説明ができる。		赤本及び配布資料	2年次の実習を復習
	各コマにおける授業予定	生理機能検査学演習①			
第10回	講義演習形式 授業を通じての到達目標	実技演習を通じて、電極の選択と装着ができる。		赤本及び配布資料	2年次の実習を復習
	各コマにおける授業予定	生理機能検査学演習②			
第11回	講義演習形式 授業を通じての到達目標	実技演習を通じて、標準12誘導心電図検査を実施できる。また、心電図は慶とアーチファクトの判別ができる。		赤本及び配布資料	2年次の実習を復習
	各コマにおける授業予定	生理機能検査学演習③			
第12回	講義演習形式 授業を通じての到達目標	実技演習を通じて、血液塗抹標本作製ができる。		赤本及び配布資料	2年次の実習を復習
	各コマにおける授業予定	血液検査学演習①			
第13回	講義演習形式 授業を通じての到達目標	実技演習を通じて、普通染色(メイ・グリュンワルド・ギムザ染色またはライト・ギムザ染色)ができる。		赤本及び配布資料	2年次の実習を復習
	各コマにおける授業予定	血液検査学演習②			
第14回	講義演習形式 授業を通じての到達目標	実技演習を通じて、白血球6分類ができる。		赤本及び配布資料	2年次の実習を復習
	各コマにおける授業予定	血液検査学演習③			
第15回	講義演習形式 授業を通じての到達目標	実技演習を通じて、赤血球浮遊液を調整できる。		赤本及び配布資料	2年次の実習を復習
	各コマにおける授業予定	輸血・移植検査学演習①			

2025 年度 授業計画(シラバス)

学 科	臨床検査技師科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	演習
科 目 名	総合技術演習		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	2年生		学期及び曜時限	後期 木曜日3,4限	教室名	6F実習室,7F実習室
担 当 教 員	齋藤 寛	実務経験と その関連資格				
《授業科目における学習内容》						
実技演習を通じ、臨地実習先で必要な知識・手技を習得する。						
《成績評価の方法と基準》						
筆記、口頭、実技、課題などの総合評価とする。						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
配布資料・赤本						
《授業外における学習方法》						
これまで学んできたこと(特に実技に関する知識・手技)を総復習する。						
《履修に当たっての留意点》						
自ら考え行動する。積極的に学ぶ姿勢を持つ。						
授業の 方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第 16 回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	実技演習を通じて、スライド法による判定ができる。	赤本及び配布資料	2年次の実習を復習	
		各コマにおける授業予定	輸血・移植検査学演習②			
第 17 回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	実技演習を通じて、試験管法(オモテ検査・ウラ検査)による判定ができる。	赤本及び配布資料	2年次の実習を復習	
		各コマにおける授業予定	輸血・移植検査学演習③			
第 18 回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	実技演習を通じて、HE染色系列が準備できる。	赤本及び配布資料	2年次の実習を復習	
		各コマにおける授業予定	病理検査学演習①			
第 19 回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	実技演習を通じて、染色標本を封入できる。	赤本及び配布資料	2年次の実習を復習	
		各コマにおける授業予定	病理検査学演習②			
第 20 回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	実技演習を通じて、HE標本を観察して臓器の同定ができる。	赤本及び配布資料	2年次の実習を復習	
		各コマにおける授業予定	病理検査学演習③			